

熊本県学力・学習状況調査 結果概要

1 調査の概要

- (1)実施期間 令和2年(2020年)12月1日(火)～12月9日(水)
- (2)調査対象 市町村立小学校第3～6学年、中学校第1～2学年
(※義務教育学校第3～8年含む。熊本市を除く。)
- (3)調査事項 教科に関する学力調査【小学校】国語、算数【中学校】国語、数学、英語
質問紙調査【児童生徒用】学習習慣や生活習慣、友達や学校との関わり等
【教師用】授業改善の状況等

小学校		中学校	
調査対象校数	調査対象児童概数	調査対象校数	調査対象生徒概数
241校	約36,000人	117校	約17,000人

2 教科に関する調査結果概要

※数値は、正答率(%)
※全国は、同調査を受けた他県等の結果を含めた参考値

学年	小学3年		小学4年		小学5年		小学6年		中学1年			中学2年		
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	数学	英語	国語	数学	英語
熊本県	62.1	69.6	67.3	68.1	65.6	65.2	68.9	72.8	71.0	56.7	61.1	68.5	56.6	50.9
全国	63.0	68.0	66.5	63.3	67.1	63.5	67.1	68.5	71.3	56.6	62.6	70.4	58.8	54.3
熊本県 (R元年度)	70.9	67.8	75.1	68.6	71.5	58.5	69.4	74.0	65.7	60.2	53.2	65.3	54.8	49.8
全国 (R元年度)	72.4	70.4	75.4	68.5	72.8	60.6	69.2	73.9	67.2	60.9	56.4	68.2	57.6	55.4

正答率が全国平均以上だった項目は、小学4、6年の国語と小学3～6年の算数と中学1年の数学である。昨年度と比較して、小中共に全体的に向上している。

3 質問紙調査結果概要

児童生徒の学習に関する取組状況(質問紙調査)

- 家で「自分で計画を立てて勉強している」児童生徒の割合
※小3年及び4年は「1日のべんきょう時間はこれくらいと、めやすをきめていますか」についての結果(いつも+だいたい)

学年	R2年度	R元年度
小3年	53.4%	52.9%
小4年	49.1%	51.5%
小5年	61.8%	57.6%
小6年	59.1%	59.5%
中1年	51.8%	50.7%
中2年	46.4%	44.6%

68.3%※H31年度全学調結果
85.3%※H30年度全学調結果

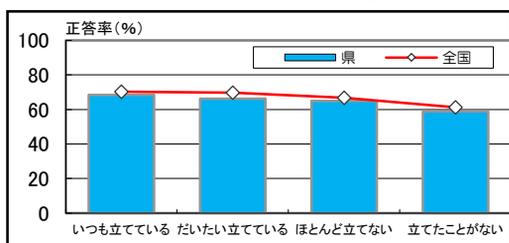
小学5年を境に学年が上がるにつれ、減少する傾向にある。

- 「先生は分かるまで教えてくれている」と回答した児童生徒の割合
(当てはまる+どちらかといえば当てはまる)

学年	R2年度	R元年度
小3年	86.8%	86.0%
小4年	88.6%	87.8%
小5年	89.1%	86.0%
小6年	90.4%	88.9%
中1年	85.6%	82.6%
中2年	85.1%	82.1%

全ての学年で前年度と比較して、増加している。

- 「自分で計画を立てて勉強している」児童(小学5年)と正答率の関係



肯定的な回答をした児童ほど正答率が高い傾向にある。このような傾向は、他の学年や「分かるまで教えてくれている」についての項目でも同じ傾向が見られる。

教師の授業改善に関する取組状況(学校教師質問紙調査)

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行っている教員の割合
(当てはまる+どちらかといえば当てはまる)

校種	R2年度	R元年度
小学校	93.1%	92.9%
中学校	91.0%	90.0%

昨年度に引き続き肯定的な回答が若干増加しており、授業改善に関する取組の意識が高まってきている。

- 単元終了時の児童生徒の姿を具体的にイメージして指導を行っている教員の割合
(当てはまる+どちらかといえば当てはまる)

校種	R2年度	R元年度
小学校	94.3%	93.3%
中学校	91.9%	89.0%

昨年度に比べ、肯定的な回答が若干増加し、授業づくりで大切にしていきたい項目の一つ「単元終了時の子供の姿」の設定が定着してきている。

教師の授業改善に関する取組状況と児童の学習に関する取組状況との比較

※()の数値は、令和元年度結果値

学校教師質問紙調査	児童生徒質問紙調査
あなたは、授業等に関わる児童生徒に対して、学校生活の中で、児童生徒一人一人の良い点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか。 (よく行っている+どちらかといえば行っている)	先生はクラスのみんなのことを、ほめてくれますか(小学3・4年生) 先生はクラスのみんなのことを、ほめたり励ましたりしてくれますか(小学5年～中学2年) (とてもよくほめてくれる+まあまあほめてくれる)
小学校教師 98.0(98.1)%	小学3年 86.9(83.4)%、小学4年 87.2(85.9)% 小学5年 86.9(83.5)%、小学6年 87.3(83.9)%
中学校教師 96.6(96.2)%	中学1年 84.2(81.7)% 中学2年 85.3(80.8)%

学校教師質問紙調査	児童生徒質問紙調査
あなたの授業では、児童生徒の理解の状況や習熟の程度に応じて補充的な学習や発展的な学習を行うなど、個に応じた指導の充実が図られていますか。(よくしている+どちらかといえばしている)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。(当てはまる+どちらかといえば当てはまる)
小学校教師 87.3(88.9)%	小学3年 86.8(86.0)%、小学4年 88.6(87.8)% 小学5年 89.1(86.0)%、小学6年 90.4(88.9)%
中学校教師 80.5(76.7)%	中学1年 85.6(82.6)% 中学2年 85.1(82.1)%

学校教師質問紙調査	児童生徒質問紙調査
あなたは、日々の授業の中で、児童生徒が自分の思いや考えを書いたり、発表したり、また、児童生徒間で、問題解決の方法等について意見を交換する場を設けていますか。(よくしている+どちらかといえばしている)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。 (当てはまる+どちらかといえば当てはまる)
小学校教師 93.9(94.8)%	小3年 66.8(68.5)%、小4年 65.9(66.5)% 小5年 66.6(66.5)%、小6年 70.4(68.9)%
中学校教師 90.6(89.0)%	中1年 69.5(69.5)% 中2年 71.5(69.3)%

同じ内容の質問項目を学校教師質問紙調査と児童生徒質問紙調査で比較すると、意識に違いが見られる。特に、「ほめたり、励ましたりすること」については、小中学校ともに約10%の差があるものの、昨年度(約15%の差)と比較してその差が縮まってきている。

また、「話し合い活動により、自分の考えを深めたり、広げたりする」については、昨年度と同様、小学校で25%程度、中学校では20%程度の差があった。